



今月のテーマ

栄養不良って何？

「栄養不良」という言葉は聞きなれないかもしれませんが、栄養分の摂取不足や病気などが原因で発育が妨げられ、また様々な健康の問題が生じる状態のことをいいます。栄養不良の子どもは病気にかかりやすく、また一端かかると回復しにくいため死亡するリスクが高くなります。また、子どものときに慢性的な栄養不良（年齢に対して身長が低い状態）になると、子どもの身体的・認知的な発達を妨げられ、その影響は生涯にわたることがわかっています。そして、人口全体ではこれが一国の経済・社会開発に大きな影響を与えることになってしまいます。たとえば、栄養不良の子どもは、そうでない子どもと比べて将来得られる収入が最大20%も低くなり、経済成長に最大3%にも及ぶ損失を与えると推定されています。栄養が不足している状態（低栄養）と逆に過剰な状態（栄養過多）が栄養不良といわれます。低栄養は世界で最も深刻で未解決な健康問題であり、社会問題でもあります。その発現の仕方によっていくつかのタイプに分類されます。

急性の栄養不良: 短期間に急激に体重が減少したり、体重が十分に増加しないことの結果として、身長に対しての体重少ない状態（いわゆる消耗症）または圧痕浮腫という形で発現します。消耗症の原因は、摂取する食糧が不足したり、病気、育児ケアや食事の与え方が適切でなかったりすることで、離乳食をはじめの時期でもあり、感染症にかかりやすい幼児期に多く起こります。

慢性の栄養不良: 長期間にわたるか繰り返される栄養の欠乏によって引き起こされる発育障害で、低身長（年齢に対して身長が低い状態）という形で発現します。低身長は栄養状態の悪さが長い期間にわたり蓄積した結果発現するため、慢性栄養不良とされる所以です。胎内での発育障害の結果として引き起こされる場合が多いのですが、幼少期に繰り返し感染症や他の病気に罹ることで発育が障害されます。最初の1,000日間（妊娠か出世以後24ヶ月まで）は子どもの発達にとって最も重要な時期であり、妊娠時の母親の健康状態と産後数ヶ月間が子どもの正常な発育に与える栄養を考えることが重要です。一般的に、発育障害は貧困、ジェンダー差別、食糧へのアクセスの悪さ、保健サービス、教育、知識不足などに起因します。

微量栄養素欠乏: 身体が十分なビタミンやミネラルを保持していない結果として引き起こされ、摂取する栄養が十分でなかったり、摂取されても十分に吸収されなかったり、吸収されても身体に利用されなかったりすることが原因になります。



ワークショップ(第2回)

第2回ワークショップ「国際栄養の現状と課題」が2015年4月14日に開催され、NGO、民間企業、コンサルタント、公共団体、大学などから15名が参加しました。前回ワークショップの概要のレビューと補足説明を行ったうえで、今回は栄養不良の要因分析についてのグループ演習を行い、その結果に基づいた効果的な栄養改善のための介入や対策として育児や食事習慣に関する行動変容活動を中心に現場事例を交えて紹介しました。参加者からは、第1回の内容を再度実施してほしいという要望も多く、その旨検討中です。

GNRセミナーの開催

4月22日に「2014年世界栄養報告(Global Nutrition Report 2014)」の日本語版の発刊によせて、日本で栄養問題に取り組む省庁、国際機関、企業、学術研究機関、NGOが一室に集えるセミナーが開催されました。GNRIは、2014年11月の第二回国際栄養会議にて発表され、国際栄養問題やその取り組み状況を初めて包括的に記述・分析したものです。NAMIはこの報告書の翻訳・編集に関わるとともにセミナーで共催NGOを代表して意見を述べました。

ホームページ公開

NAMの団体ウェブサイトを開きました。栄養不良に関するあらゆる技術情報、プロジェクト事例、国内外の会議やイベントの情報、などをアップロードしてゆくとともに、Q&Aのかたちでの広く関心のある方々の間での情報交換や意見交換も行ってゆきたいと考えています。

今後の計画

7月末に第3回ワークショップ「国際栄養の現状と課題」が、栄養調査の基礎と実践をテーマに開催されます。また、NGOネットワークを通じた提言活動としてラウンドテーブル開催に協力します。その他に、地域の国際協力イベントなどでの出展や出前セミナーや、その他いろいろな形で広く啓発活動も行います。